令和元年度

第1回

i-Constructionセミナー

i-Construction

ICT活用の必要性と効果

”普段使い”で身近で便利なICTの世界

令和元年7月25日(木) 13:30～15:30

ビッグパレットふくしま　3階第2・3会議室

第1部　13:30～14:40

”普段使い”で身近で便利なICTの世界
講師:株式会社大竹組　常務取締役　山西公彦 様

株式会社大竹組は徳島県海部郡牟岐町にある完工高約7億、従業員35名の建設企業です。
大正10年に創業し間もなく100周年を迎えますが、「地域に愛される企業活動を目指し・・」という経営方針を掲げ地域に貢献してきました。
平成27年にICTを導入してから積極的な投資を進め、その取り組みが評価され「平成30年度i-Construction大賞」も受賞しました。
ICTについて土工や舗装工事のようなICT活用工事でなければとか、市町村発注工事ではICTが活用できないとか、3次元データを作るより座標計算のほうが早いとかお考えの皆様、それは大きな間違いです。いかなる発注でも土木は全て3次元構造でできています。
土工やコンクリート構造物を3次元データ化すれば、驚くほど現場の生産性が向上し、利益向上に繋がります。
小規模工事でも3次元データを作成して、300万円の投資からICTを始めることができます。
大竹組では、経験年数の少ない若手社員に積極的に仕事を任せることでモチベーションアップにつながり、さらに生産性が向上したことで仕事以外に自分の時間を持つことができ働き方改革にも繋がりました。
今回の研修会は、大竹組のi-Construction対応の責任者である山西公彦常務取締役を迎え、ICT導入のメリットや実務について紹介をいただきます。
山西常務は現在全国各地での講演を行うほか、多くのメディアにも登場しています。

（株）大竹組 HP　http://www.otake.co.jp/

第2部　14:50～15:30

若手技術者採用・育成の取組み事例
～施工管理のバックヤード業務とインターンシップを活用した採用活動～
講師:ワイズ公共データシステム株式会社　取締役　荻原隆仁 様

i-Constructionの本格導入から3年経過し、建設現場の生産性向上を目的とした技術導入が各所で推進されています。
また、若手技術者の採用と早期育成は、建設業界全体の重要課題となっています。
このセミナーでは施工管理のバックヤード業務（書類作成・写真整理）の生産性向上の取組み、高校生・大学生向けインターンシップを活用した効果的な技術者採用活動等の取組み等について解説します。

申 込 み 先　（一社）福島県建設業協会技術課　Email: gijutsuka@e-fukuken.or.jp
申込み期限　令和元年7月18日（木）
受　講　料　無　料